

高い在宅復帰率を達成できた要因の検討

—リハビリテーション専門病院からの報告—

き 木 さ 佐 とし 俊 ろう 郎 お 小 の 野 けい 恵 じ 司
 さか 酒 い 井 やす 康 お 生 いし 石 だ 田 とおる 徹

キーワード：リハビリテーション，FIM，在宅復帰率，
回復期リハビリテーション病棟

要 旨

当院では在宅復帰率が昨年の58.9%から今年は75.0%と大幅に高くなり、全国平均の65.8%も超えることができた。その要因として、FIM平均が入院時に67.9から退院時83.0へと平均15.1改善し、昨年の12.7を上回るなど、リハ効果の向上が考えられた。その背景としては、入院までの期間を短縮し早期から集中リハを行えるようにし、リハ療法の密度と質の向上（リハ療法士の増員、新技術や機器の導入）、急変による転院の減少に示される内科管理力の強化、リハ看護の積極的展開（摂食機能療法の増加、集団コミュニケーション療法への協力など）があった。

在宅に向けての説明・同意と支援体制の強化（書類の活用、MSWの増員など）も図られたが、在宅復帰できず老健や療養型病院に転出した11例を検討すると、病弱でADL障害も重度とか独居等で介護力や介護意思に乏しい家族構成であった。

はじめに

1) 当院の概要

病床種別は一般病床＋療養病床で、この中に回復期リハビリテーション（以下リハと略す）病棟を、最大58床×2の計116床（全国データは1病棟平均45.9床）の運用で、リハを行っている。ス

タッフは、H20年10月現在、常勤医師5人、看護職44人、介護職23人、PT19人、OT14人、ST4人、MSW3人、薬剤師2人、放射線技師1人、他で、適格なゴール設定を心がけ¹⁾、「リハ医療に関する説明と同意書」、「リハ診療・病棟運営マニュアル」の運用²⁾を実施している。

2) 入退院状況

昨年度、今年度の入院患者の状況は表1に示す。調査期間はH19年8月初め～10月末までの3ヶ月間と、H20年の同一期間であり、全国平均

Toshirou KISA et al.

出雲市民リハビリテーション病院

連絡先：〒693-0033 出雲市知井宮町238